

まちかど

アルバム



砂×光 いちごいちえ 一期一会のコラボレーション

鳥取砂丘「砂の美術館」

12月11日(土)、砂の美術館でクリスマスアートプロジェクト「D-K LIVE」ディーケーライブがスタートしました。D-Kとは長谷川章さんはせがわあきらが開発した芸術手法で、「デジタル掛け軸」の略。100万枚のデジタル映像をランダムに組み合わせて映写することから、2度と同じ映像を見ることができない一期一会のアートです。12月26日まで開催され、大勢の観光客の目を楽しませました。砂の美術館第4期展示は1月10日まで。

「すす払い」と「八日吹き」ようかぶ

河原歴史民俗資料館

12月8日(水)、河原歴史民俗資料館で民俗行事「すす払い」と「八日吹き」が行われました。この行事には「河原町民俗行事を語る会」の会員ら16人が参加。ササと豆殻、福木、わらを竹の先に束ねた手作りのほうきを使って、軒下などにたまった1年のすすを落としました。また、旧暦の12月8日は「八日吹き」と言って、この日に豆腐を食べると1年間のうそが帳消しになると言い伝えられていることから、みなさんで豆腐に味噌をつけて食べました。



亀井公墓所

亀井公が取り持つ交流

鹿野町

昭和60年から続いている「津和野町・鹿野町友好交流事業」。同じ亀井茲矩公かめいこのりが治めていた城下町という縁で、毎年、互いの町を訪問し、友好交流を行っています。今年は、11月27日(土)と28日(日)に津和野町の関係者15人が鹿野町を訪れ、鹿野往来交流館きらくあんや鬼楽庵、鳥の劇場、亀井公墓所の視察などを行いました。意見交換会では「まちづくりには、さらなる住民意識の向上が必要」など、まちづくりに関する活発な議論が交わされました。

大きさ世界一？の手すき和紙

あおや和紙工房

11月23日(火)、あおや和紙工房で巨大な手すき和紙作りが行われました。特産の因州和紙の魅力さをさらに広めようと企画されたこのイベントには、約30人の地元住民が参加。長さ11.7m、幅3.6m、重さ8kgの巨大な和紙が均等な厚さになるよう、慎重に作業を進めました。関係者によると「溜め漉き」という技法では世界一の大きさではないかとのこと。この和紙は、1月16日に行われる書初め大会で使用される予定です。





鳥の劇場が保育園にやってきました！

浜村保育園

11月18日（土）、浜村保育園に鳥の劇場がやってきました。「本物の演劇を子どもたちに見せたい」という保護者会の思いに、役者のみなさんが快く応じて実現。「3びきのやぎのがらがらどん」と「どろぼう学校」の2つの芝居が上演されました。大きな動きとよく通る声、そして、会場の遊戯室をいっぱいを使って進められる演劇に、子どもたちは大喜び。立ち上がり、身を乗り出して楽しんでいました。

クリスマスリースで年末を華やかに

国府町中央公民館

11月24日（水）、国府町中央公民館でクリスマスリースを作る教室が開催されました。教室には、地元の主婦ら13人が参加。講師の前田恵美子まへだ えみこさんに教わりながら、土台となる枠作りから飾り付けまでを行いました。土台作りではみなさんが集中していましたが、飾り付けのころには和やかな雰囲気になり、約2時間で華やかなクリスマスリースが完成。出来上がったリースは、各家庭に飾られ、クリスマスムードを一層盛り上げたそうです。



「わらべうたあそび」で親子のふれあい

用瀬地区保健センター

11月12日（金）、用瀬地区保健センターで「親子のわらべうたあそび」が開催されました。地元の親子約40人が参加し、市内で活動するわらべうたの会「ゆなの木」の2人から、わらべうたや身近な道具を使った遊びを教わりました。わらべうたの良さを知ってもらおうと、関連する絵本の展示コーナーも設けられ、参加者は絵本を見たり、親子のスキンシップを楽しんだりしながら、ゆったりとした時間を過ごしました。

市民活動団体が一堂に

さざんか会館



12月10日（日）、さざんか会館で「市民活動フェスタ in とっとり」が開催されました。これは、ボランティアや市民活動への理解

を深めてもらうことを目的に開催されたもので、市内39の市民活動団体が参加。活動内容を発表したり、オリジナルの商品を販売したりして、市民との交流を深めました。中でも、鳥取市レクリエーション協会が設けたバルーンアートのコーナーは大人気で、大勢の子どもたちが作り方を熱心に教わっていました。

モザイクアートで商店街に活気を

川端一丁目



12月4日（土）、中心市街地商店街の空き家を改装した1室で、参加者が協力して1つの大きなモザイクアートを作るイベントが開催されました。これは、鳥取大学地域文化学科の2年生グループが「トトリをデコレーションしたい」という意味で「トリ

デコ」と名付けて開催したもので、約30人の親子連れらが参加。画用紙に決められた色の因州和紙をちぎって貼り付け、次々と絵の一部を完成させていました。